

社会福祉
 法人 豊中市社会福祉協議会

ボランティアセンターだより

第 75 号 令和 4 年(2022 年)3 月 31 日
 発行 社会福祉法人 豊中市社会福祉協議会
 ボランティアセンターだより編集委員会
 〒560-0023 豊中市岡上の町 2-1-15
 TEL (6848)1000 FAX (6848)1005
 URL: <http://www.toyonaka-shakyo-vc.org/>
 E-mail: tcpvc@gold.ocn.ne.jp

福祉体験学習のとりくみ

コロナ禍でも学校ではさまざまな工夫をしながら福祉体験学習に取り組まれています。
 ボランティアセンターでは学校と相談しながら、ボランティアグループ、障害当事者の方のご協力を得て、こどもたちにボランティアについて考えるきっかけとなるような機会を提供できればと考えています。

十六中 コロナ禍でも自分たちにできること～フードドライブの取り組み～

市社協 CSW の活動やボランティアについての講話の中で、コロナの影響で生活に困窮している世帯がたくさんあり、フードドライブで集まった食材を必要な世帯や団体に提供する支援を行っていることを知った生徒たち。自分たちでもフードドライブをやってみようと「食材応援プロジェクトチーム」を立ち上げました。全校生徒に呼びかけ、集まった食材は市社協に寄付していただき、生活困窮者等の支援に活用させていただきました。

「今までボランティアは自分とは関係ない、実感しにくいものだったが、フードドライブを通して、身近なものに感じられた。」



「学年関係なくいろんな人とつながってうれしかった。楽しかった。自分も幸せになっていく気がした。」



七中

障害当事者の話から学ぶ～車いす体験・白杖体験～

車イス体験、白杖体験を実施するにあたり、実際に車いすユーザーや視覚障害の当事者の講演を聞きました。当事者の話を聞くことで、体験する際も当事者の生活を具体的に想像しながら取り組むことができたのではないのでしょうか。

車イスで甲子園に行ったり、ダイビングで海に潜ったりする話も聞きました！



「車いすになったから『何もできない…』ではなく『これからも挑戦し続けよう』という強い気持ちも持っている事を聞かせていただきすごく勇気もらった」

十七中

コロナに負けず～オンライン授業でやってみよう～

コロナの感染拡大で 2 週間前に急遽対面からオンライン授業に変更することになりました。どのボランティアグループもオンラインははじめて。場所や機材の調整を行い、オンラインでは伝わりにくい部分をどうやって伝えるかグループで相談。ドキドキの当日を迎えました。対面では伝わることもオンラインだとなかなか伝わりにくく、試行錯誤しながら、その場で対応していただき、授業を終えました。

手話体験（協力：庄内手話サークル「虹」）

初めてのオンライン学習にドキドキ。画面に制限がある中でどれだけ手話が伝わるかと不安でしたが、生徒さんと繋がれた時は嬉しかったです。

またオンラインだからできることもあると学びました。

ただ、いつかは直接顔を合わせての学習を…という思いも残りました。

**点字体験（協力：点字サークル「つくしんぼ」）**

点字は、縦3、横2の六つの点で構成されていますが、正しく書いているかどうかを確認する作業がどうしても外せません。しかし、自分の名前を点字で書く、簡単な点字を読むくらいなら、メンバーと協力してできるのではないかと

と初のオンライン学習を決断しました。当日は先生の盛り上げと生徒さんのやる気満々で無理と思われたのが何とか楽しく終わることができました。



ご協力ありがとうございました。

コロナ禍で直接触れ合うことができず、やり方を模索する日々・・・そんな中、オンライン授業に参加しました。どのように生徒さんに伝わるのか不安でした。とにかく手探り状態で頑張りました。画面越しの授業では、十分な理解につながらなかったのでは…と思っています。

インスタントシニア体験（協力：ボランティアグループ「ステッキ」）

に画面越しに説明。その後、教室で先生と生徒さんに体験してもらいました。初めてのオンラインでしたが、有意義な体験ができていればと思います。

車いす・アイマスク体験（協力：ボランティアグループ「みちるべ」）

★生徒の感想より★「手話を覚えることでもっといろいろな人と話せることはとてもいいことだと思いました。どんどんこれから手話を覚えていきたいです。」「点字を教えてくださいました方がおっしゃっていた「覚える点字」よりも「楽しい点字」この言葉が印象に残りました。」「白内障対応ゴーグルをつけると小さい字が見えにくかった。写真はレトロの写真のようにも見えた。高齢者によりそうことが大事だと思った。（インスタントシニア体験）」「声をかけてあげるのが、やはり大事ななだと思いました。（車いす体験）」「てびきの人を頼りに歩くので、てびきする人がとても大切だだと思いました。（アイマスク体験）」

ボランティアあれこれ



コロナ禍の2年間、ボランティアグループの活動も中止や制限が続く中で、どのグループもメンバーの減少や今後の活動に、頭を悩ませています。オンラインも活用しながら、新しいやり方で活動を進めているグループもあります。ボランティアセンターとしても、ボランティアのみなさんに少しでも元気に安心して活動してもらえるよう考えていきますので、コロナ禍を一緒に乗り越えていきましょう。

**<お知らせ>**

3月5日に予定していた第29回豊中ボランティアフェスティバルは、新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮し、中止となりました。来年度は、みなさんと笑顔で会えることを願っています！

あくりパーク（岡町南3-16）にはボランティアのかかしがいます！
（ぐるぐるアート豊中世話人会
西田さん作成）

令和3年度大阪府市町村ボランティア連絡会

北摂ブロック ボランティア交流会

25周年のつどい linZoom

令和3年10月28日摂津市立コミュニティープラザに於いて北摂地区交流会が開催されました。

久しぶりの対面での会合に会場は笑顔が溢れました。挨拶の後、公益財団法人「ドナルド・マクドナルド・ハウス・チャリティーズ・ジャパン」 おおさか健都ハウス ハウスマネージャー小泉 直人氏の講演がありました。長期治療の子どもたちの家族のための第二の我が家、お子さんの治療に付き添うための家族の滞在施設で全国に7箇所開設されているそうです。

家族が一緒にいられる。家族の休養が取れる。経済的負担の軽減(1日1人1000円)。プライバシーの確保。精神的支援等。ご家族にとって心強い施設です。また、寄付やボランティアで運営されているとの事。心が暖まり、自分に何が出来るか考えながら帰路に着きました。コロナ禍での開催、色々ご配慮いただいた摂津市の皆様ありがとうございました。

(更生保護女性会 木村 清江)

大阪府市町村ボランティア連絡会が令和3年度で設立25周年を迎えたことを受け、12月1日に「25周年のつどい」がZoomで開催されました。

福祉ジャーナリストの町永俊雄氏による記念講演のあと、4市町(池田市、四條畷市、狹山市、熊取町)から活動発表がありました。コロナ禍で工夫に工夫を重ね活動されるそれぞれの実践報告は、伝えたい熱意と気持ちをしっかりと受け取りました。

また、全員参加の「日本一短い手紙」はみなさんの日頃の想いを掲げて、明日に繋がるいい企画でした。私たち、一人ひとりの力は小さくとも、みんなが集まれば大きな力となって、暮らしやすい町づくりの一助となることを願って活動してまいります。

ありがとうございます。

(ぐるぐるアート豊中世話人会 西田 正男)

<URL> <http://heiwa.holy.jp/arigato/>

ボランティア
はじめの一歩講座

ボランティア活動を始めてみたい方、始めて間もない方、社会福祉に関心がある方を対象にボランティアの入門講座を開催しました。11月15日、19日と同内容の講座を開催し、計24名の方にご参加いただきました。1部では市社協より「豊中市社会福祉協議会の取り組み」についての講義、2部では大阪教育大学教授の新崎国広さんより「はじめのボランティア」についての講義動画を視聴。3部では「ボランティア体験談」をボランティア経験者からお話いただきました。

○参加者からの感想(抜粋)

- 様々な視点からの話が聞けて、ボランティアの心構えや必要性をより感じる事ができた。
- ボランティアの言葉・意味・意義を見つめ直す事ができ、とてもよかった。

市社協ボランティア団体連絡会
はじめてのZoom勉強会

コロナ禍でオンラインの会議やイベントが増える中、団体連絡会や各グループでも今後オンラインを活用していければと10月18日、Zoomの勉強会を開催しました。

定例会で早くからZoomの勉強会をしていた、ボランティアグループ「アクセス」のメンバーに講師の依頼がありました。

当日は、普段使い慣れているパソコンやスマホと勉強会用のタブレットでメニューの位置が違うなど、少しとまどいもありました。資料も用意していましたが、参加者3名の少人数で初心者ということもあり、Zoomのイロハから説明して、個別の質問に答えるなどその場で臨機応変に対応して、なんとか勉強会を終えました。

(アクセス 八木 守)



年賀状ボランティア

昨年11月から12月にかけて3日間、豊中市内のひとり暮らし老人の会の会員の方々に送る年賀状を作成しました。新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、人数制限をさせていただきましたが、参加していただいたみなさんにご協力いただき、849名の方々に温かいメッセージを添えた年賀状を送ることができました。年賀状を受け取った方からも多数喜びの声をいただきました。参加していただいたみなさん、ありがとうございました！



素敵な年賀状が仕上がりました。

市社協災害支援訓練

令和4年1月15日(土)に豊中市すこやかプラザにて災害支援訓練を実施しました。この訓練では平成7年1月に発生した阪神・淡路大震災で大阪府下最大の被災を受けた豊中市において、その経験を活かし、緊急時における市民の協力体制の整備や震災の教訓を風化させないために、災害時の市社協の動き、災害ボランティアセンターの立ち上げシミュレーション訓練を実施しています。当初は、豊中市社協災害支援ネットワークに参画のボランティアのみなさんと一緒に訓練を予定していましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、市社協職員・三役と災害支援ネットワーク世話役の方のみで実施しました。災害時に一人一人が、どのように考えて動くことが必要か訓練を通して学びました。



ボランティア受付前に検温を実施



依頼を張り出し、ボランティアをマッチング

フードドライブにご協力ください！

豊社会福祉協議会では、市民の皆様からご提供いただいた食材を善意銀行という窓口でお預かりし、制活に困窮をしている方や必要としている団体等へ、食材提供の支援を行っています。

ボランティアセンターぶらっとでは、昨年12月よりボランティアグループのみなさんに寄付受付のスタッフとしてお手伝いいただきながら、毎月第1月曜日10時～15時にフードドライブ窓口を開設しています。ご家庭で眠っている食品が誰かの役にたち、食品ロスを減らすことにもつながります。みなさまのご支援ご協力をお待ちしております。詳細はボランティアセンターまでお問い合わせください。



☆ご提供いただきたいもの☆
例) お米、パスタ、素麺、缶詰、レトルト・インスタント食品、のり、お菓子、離乳食、粉ミルク、調味料、飲料水など
※消費・賞味期限が1か月以上・未開封

編集後記 (TEL: 06-6848-1000)

コロナ禍にあってボランティア活動にも大きな変化があり、この先ボランティア活動に如何に向き合って難局を乗り越えるか自問自答しているところです。みなさまは如何様に乗り越えていられるのでしょうか。私自身悩み続けている今日この頃です。(聴くの会 UH)

